

ワークショップ発表

午前：10:00-12:00 午後：12:45-14:45

＝ すべての人に星空を ―星と人をつなぐ仕事― ＝

高橋 真理子 （一般社団法人 星つむぎの村代表）

宙先（そらさき）案内人として、現代の科学がみせる宇宙像を、詩のように解説する。なかなか本物の星が見られない子どもたちやその家族に、星空を届ける。

【発表内容】

星空は、すべての生命にとっての共有の風景です。そんな星空がもつ力を感じてもらいつつ、星つむぎの村の活動のメインである「病院がプラネタリウム」から見えてくる世界を紹介します。



WS - 1 10:00-11:00

＝ 子どもたちに「ライフジャケット」を！―思いはただ1つ…子どもたちの命を守ること― ＝

森重 裕二 （子どもたちにライジャケを！）

WS - 3 10:30-11:00



「子どもたちにライジャケを！」代表。元小学校教諭、現在は庵治石細目「松原等石材店」3代目。「思いはただ1つ…子どもたちの命を守ること。」をコンセプトに、子どもの命を守る「ライフジャケット」のことを伝えるために日々活動中。

【発表内容】

リスクの高い水辺での活動で安全性を飛躍的に向上させる「ライフジャケット」について、なぜ準備することが必要なのか？ 管理者の責任は？ これからの「ライフジャケット」について、子どもたちとアウトドアで活動するみなさんに「ライフジャケット」を取り巻く現状をお伝えします。

※本ワークショップは30分間です

＝ 登山案内図に見る富士登山 ＝

大高 康正 （静岡県富士山世界遺産センター 学芸課教授）

静岡県富士山世界遺産センター学芸課に勤務。専門分野は歴史学で、日本中世史、社会史を専攻。多くの人々を魅了してやまなかった寺社参詣、聖地巡礼の世界を研究している。

【発表内容】

江戸時代の人々の富士登山について、富士山かぐや姫ミュージアム所蔵の登山案内図「富士山禅定図」（ふじさんぜんじょうず）に描かれている登山道や、立ち寄り先などを解説することで、当時の人々の富士登山について追体験をする機会としていただければと思います。



WS - 2 11:00-12:00

実行委員企画

= キャンプ協会で頑張る若手の集い =

WS - 5 12:45-13:45

【発表内容】

日本キャンプ協会は、過去に「青年ミーティング」という事業を運営していました。そこでは、日本全国の若手キャンプ指導者、研究者が集い、親睦を深め、互いに刺激し合っていました。当時のように、若手が集い、キャンプについて、キャンプ協会について考え、話し合うような場を設けたいとの思いから、今回のワークショップが企画されました。

今回のワークショップでは、平成生まれでキャンプディレクター1級を取得している若手の3名からと共に、キャンプ協会のこれまでとこれからについて話し合いたいと思います。

万場 るり子 （兵庫県キャンプ協会理事）



4歳の時、家族でキャンプに行ったのが野外活動との出会い。小学～高校では子ども会のジュニアリーダーとしてキャンプやレクリエーションに携わる。大学時は、兵庫県立いえしま自然体験センターのキャンプリーター会に所属するとともに、自然学校のリーダーとしても活動。現在は兵庫県内の高校に勤務し、国語と中国語を担当する。兵庫県キャンプ協会には、20周年記念キャンプから参加し、運営委員を経て、数年前から理事を務める。

落合 美波 （群馬県キャンプ協会）

元公立小学校教諭（東京・群馬）、幼稚園での勤務経験有り。現在、平日は「ぐんま里山学校」のスタッフとして、不登校等の子ども達のサポート、週末や長期休みには、小学生を対象に、里山でキャンプを実施中。



川畑 和也 （鹿児島県キャンプ協会）



1992(平成4)年鹿児島県鹿児島市生まれ。2017年キャンプディレクター1級取得。大学でレクリエーション・野外教育研究室に所属し、それ以来キャンプ協会の活動を中心に、子どもの自然体験活動、指導者養成などに取り組む。2015年より鹿児島県キャンプ協会事務局書記として、主催事業の企画・運営、広報誌・グッズの作成、HP・SNSの管理などを行う。九州キャンプミーティングにも事務局として携わる。

= 絵本を通して考える「おいしくカレーをつくるポイント」 =

WS-4 11:00-12:00

蒲 健吾 (ラボ教育センター・東京都キャンプ協会)



課程認定団体であるラボ教育センター勤務。幼少の頃より英語での物語劇を主な活動とするラボ・パーティ主催のキャンプに参加。高校生ではグループのカウンセラーを経験し、大学4年間スタッフとして企画運営に携わる。現在は、中野区キャンプレクリエーション協会所属し、東京都キャンプ協会理事を務める。キャンプディレクター1級。

【発表内容】

世界の名作絵本「せかいいちおいしいスープ」をテーマに「おいしくカレーをつくるポイント」を参加者で考えるワークショップです。絵本のおはなしを知らなくても大丈夫、絵本の読み語りを聞いて、その感想をヒントにキャンプの定番カレー作りについて考えます。ワークショップをとおして指導者としての経験や知識、アイデアなどの交流をしましょう。

= レクで人気のじゃんけんゲームで触れる、キャンプの装備・安全！ =

蒲 健吾 (ラボ教育センター・東京都キャンプ協会)

【発表内容】

レクリエーションで人気の「すきやきじゃんけん」を「キャンプの装備」や「キャンプの安全」バージョンにアレンジ！ゲームをとおして、キャンプの装備にどんなものがあるのか、キャンプの安全を考えるとときに必要な視点はなにかなどの知識を整理していきます。

キャンプインストラクターテキストを普通に読むだけではつまらない、でも対面ではないから実際に触る時間も限られる。今後の講習会での実施に向けたチャレンジワークショップです。ぜひご協力ください。

WS-8 13:45-14:45

= オンラインや360度カメラを使用したstayhomeでの自然体験の検討 =

石川 大晃 (アクトインディ株式会社/いこーよ四季冒険部ディレクター)

第25回キャンプミーティング実行委員。わくわくbase株式会社保育士。「子どもたちや次世代の可能性が広がる場を生み出し続ける」をスローガンに、いろいろな活動を展開する。



【発表内容】

昨年から新型コロナウイルス感染症の影響で、現地集合型の自然体験実施については、常に新型コロナウイルス感染症での社会情勢を検証し、状況によっては延期や中止の判断をせざるおえない状況が続いています。私達は、昨年からはオンライン自然体験について試行錯誤してきました。本発表では、オンライン自然体験作りの動きの中での成功や失敗のエピソード、更に現在挑戦している360度カメラを使用した体験づくりについてお話できればと考えています

WS-7 12:45-13:45

= なぜ、馬や自然は子どもの育ちにいいのか？ ～ホースセラピーの現場から～ =

黍原 豊 (一般社団法人 三陸駒舎)

NPO や県立児童館を経て、東日本大震災後に釜石市に移り、復興まちづくりに携わる。被災地での継続的な子ども支援の必要性を感じ、馬の力に頼りながら子どもの心と身体を育むホースセラピーに取り組む三陸駒舎を 2015 年に設立する。



【発表内容】

現在、三陸駒舎には毎月延 200 名ほどの子どもたちが利用しています。発達障がいなど、でこぼこした発達の子どもの来ています。なぜ馬や自然は7つの感覚を育むのか等、現場から得られた知見を共有します。

WS-6 13:45-14:45

= 研究発表 =

日本キャンプ協会「キャンプ保険（国内旅行傷害保険）」の事故分析

小西 岳勝 (静岡県立朝霧野外活動センター)

R-1

アフターコロナのインバウンドキャンプ市場（中華圏）の可能性

王聖慧 (株式会社粉雪天堂)

R-2

= 実践(取り組み)発表 =

コロナ禍のキャンプ実習ーオンラインでやってみたー

山根 真紀 (日本福祉大学スポーツ科学部)

P-1

自然学校と企業・メーカーとの連携に向けた取り組み

徳田 真彦 (大阪体育大学)

P-2

密を避けた野外炊飯 (鉢輪炊飯)

中島 宏 (福岡県キャンプ協会)

P-3